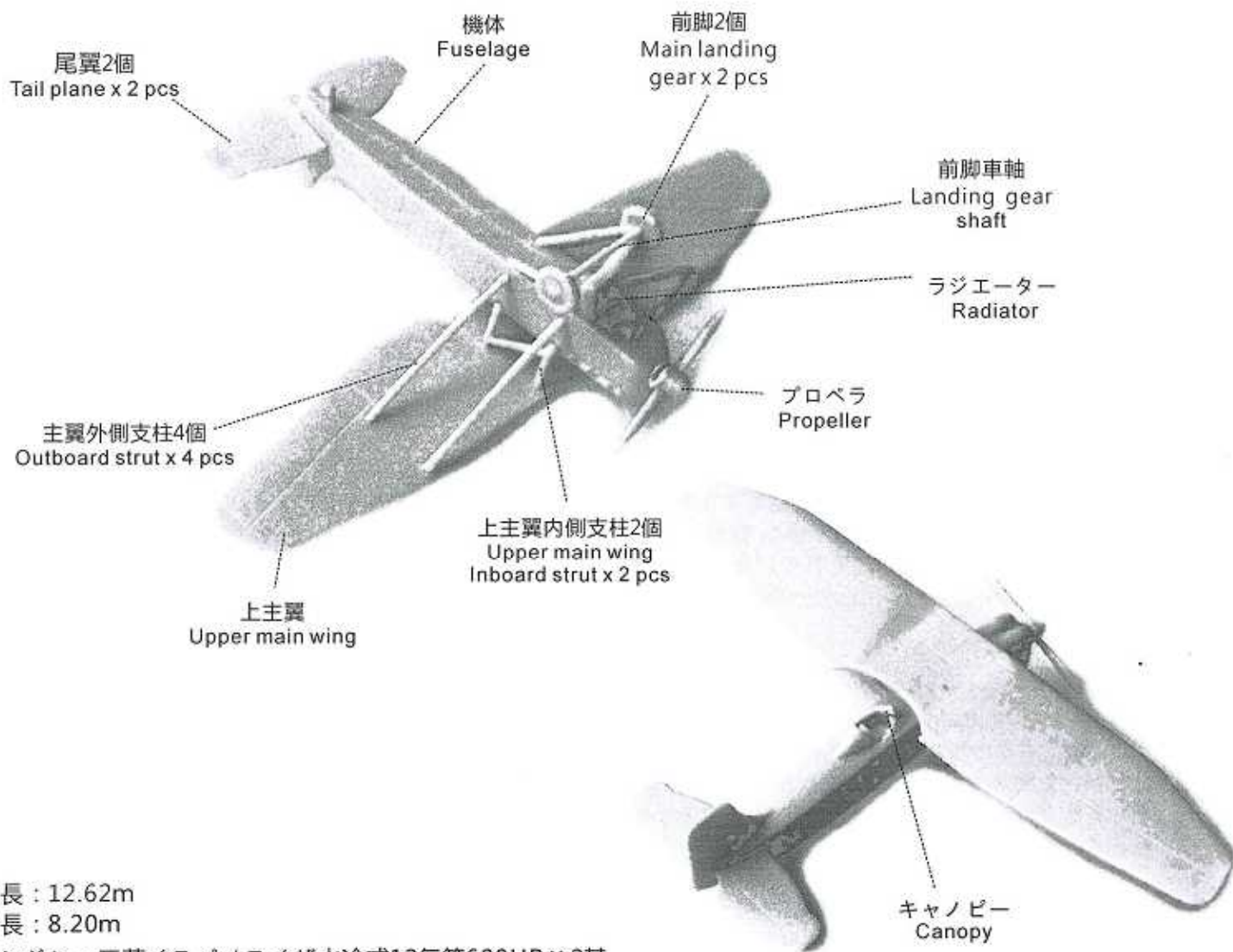
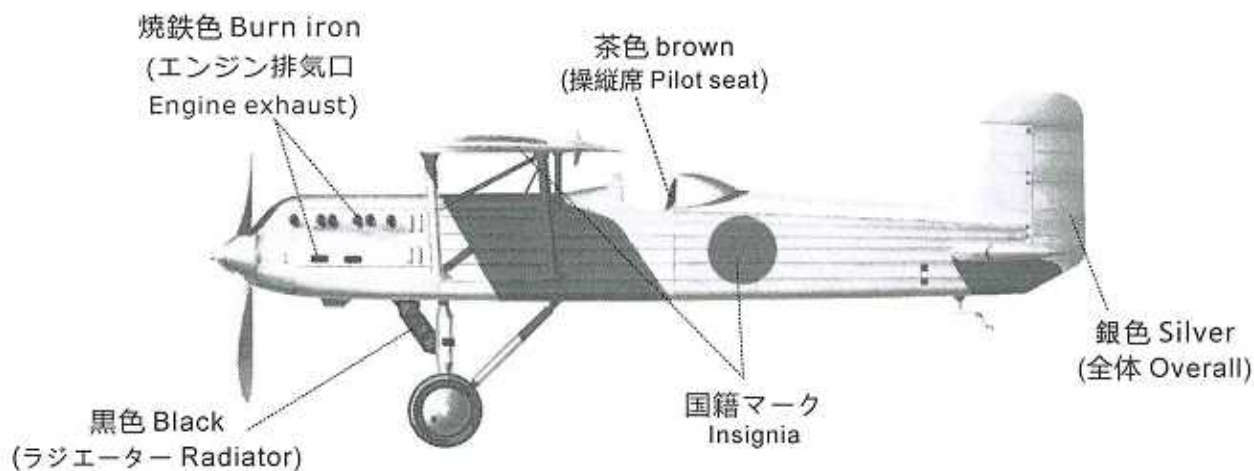


1/144 三菱 隼型試作戦闘機 1MF2

昭和2年、陸軍は既に旧式化していた甲式四型戦闘機の代わりになる新型戦闘機の開発命令を、三菱、中島、川崎の3社に提出した。三菱は、アレクサンダー・パウマン教授のもと、仲田信四郎技師を主務者とし、堀越二郎、田中治朗技師らを配して、昭和3年5月に試作1号機を完成させた。テスト飛行では、270km/h (高度3,000m) の高速を出し、3社の中では最も良い成績を上げたが、400km/h急降下テスト中に空中分解で墜落し、絶対的な機体の強度不足の為、2機が製造されただけで制式採用には至らなかった。



翼長：12.62m

全長：8.20m

エンジン：三菱イスパノスイザ水冷式12気筒600HP X 2基

最高速度：270 km/h

武装：機関銃 7.7mm機銃 ×2(機首固定)

総生産数：2機

